

## 【A年】

### 復活節第五主日

全能の神よ、あなたをまことに知ることは、永遠の命に至る道です。どうかわたしたちが、み子イエス・キリストは道であり、真理であり、命であることを深く知って、み跡に従い、永遠の命に至る道を絶えず進むことができましようように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

### 使徒言行録

朗読者 「使徒言行録は第十七章一節から」

1. パウロとシラスは、アンフィポリスとアポロニアを経てテサロニケに着いた。ここにはユダヤ人の会堂があった。2. パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合

い、3. 「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」と、また、「このメシアはわたしが伝えているイエスである」と説明し、論証した。4. それで、彼らの中の者は信じて、パウロとシラスに従った。神があがめる多くのギリシア人や、かなりの数のおもだった婦人たちが同じように二人に従った。5. しかし、ユダヤ人たちはそれをねたみ、広場にたむろしているなら、何人か抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして捜した。6. しかし、二人が見つからなかつたので、ヤソンと数人の兄弟を町の当局者たちのところへ引き立てて行つて、大声で言った。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。7. ヤソンは彼らをかまっていますのです。彼らは皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています。8. これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。9. 当局者たちは、ヤソンやほかの者たちから保証金を取ったうえで彼らを釈放した。

10. 兄弟たちは、直ちに夜のうちにパウロとシラスをベレアへ送り出した。二人はそこへ到着すると、ユダヤ人の会堂に入った。11. このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。12. そこで、そのうちの多くの人が信じ、ギリシア人の上流婦人や男たちも少なからず信仰に入った。13. ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、ベレアでもパウロによって神の言葉が宣べ伝えられ

ていることを知ると、そこへも押しかけて来て、群衆を扇動し騒がせた。14それで、兄弟たちは直ちにパウロを送り出して、海岸の地方へ行かせたが、シラスとテモテはベレアに残った。15パウロに付き添った人々は、彼をアテネまで連れて行った。そしてできるだけ早く来るようにという、シラスとテモテに対するパウロの指示を受けて帰って行った。

朗読者 「使徒言行録を終わります。」

## 詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

### 第六六編 一〜八節

- 1 全地よ、神に向かつて喜びの声を上げよ＝ 名々の栄えをほめ歌い、その栄光を賛美せよ
- 2 神に向かつて言え、「あなたのみ業は恐るべきもの＝ 敵も偉大なみ力にひびをかかめる
- 3 全地はあなたを伏し拝み＝ 名をたたえて喜び歌う」
- 4 来て、神のみ業を仰ぎ見よ＝ 人びとに行われた恐るべきみ業を
- 5 神は海を陸に変え、人は川の中を歩いて渡った＝ 彼らは神のみ業を感謝して喜んだ

6 神は力を現してとこしえに治め＝ 諸国に目を注ぎ、逆らう者を高ぶらせない

7 すべての民よ、わたしたちの神をたたえ＝ 賛美の声を響かせよ

8 神はわたしたちに命を与え＝ 足を揺るぎなく支えられる

## 使徒書

朗読者 「使徒書はペトロの手紙I 第二章一節から」

1だから、悪意、偽り、偽善、ねたみ、悪口をみな捨て去つて、2生まれたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。これを飲んで成長し、救われるようになるためです。3あなたがたは、主が恵み深い方だということを味わいました。4この主のもとに來なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとつては選ばれた、尊い、生きた石なのです。5あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となつて神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。6聖書にこう書いてあるからです。

「見よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、シオンに置く。これを信じる者は、決して失望することはない。」

7 従って、この石は、信じているあなたがたには掛けがえのないものですが、信じない者たちにとつては、

「家を建てる者の捨てた石、

これが隅の親石となった」のであり、8 また、

「つまずきの石、

妨げの岩」

なのです。彼らは御言葉を信じないのでつまずくのですが、実は、そうなるように以前から定められていたのです。

9 しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。

10 あなたがたは、

「かつては神の民ではなかったが、

今は神の民であり、

憐れみを受けなかったが、

今は憐れみを受けている」

のです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十四章一節以下に記された主イエス・キリストの福音。 主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。2 わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。3 行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのものと迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。4 わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」5 トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができのでしょうか。」6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。7 あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知るようになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」8 フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示しください。そうすれば満足できます」と言うと、9 イエスは言われた。「フィ

リポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示しください』と言うのか。10わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。11わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。12はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。13わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。14わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」